

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078000082		
法人名	有限会社 まんてん		
事業所名	グループホーム まんてん	ユニット名	
所在地	福岡県久留米市三潅町草場33-1		
自己評価作成日	平成29年1月6日	評価結果市町村受理日	平成29年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年1月11日	評価確定日	平成29年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中でご利用者様ができないところをサポートしている。また、地域の中に溶け込めるよう機会があれば積極的に地域活動に参加している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホームまんてん”では入居者個々の楽しみを増やし、日々の役割を発揮して頂いている。入居者の自立支援の視点も継続し、「できる所は自分で行う」環境が作られている。長い廊下を車いすを自操しながらリハビリに励まれている方や、家族のために編み物をされている方もおられる。往診や訪問看護なども利用し、日々の健康管理やリハビリが行われ、職員の観察力の成果で体調変化の早期発見に努めている。職員は入居者の方々に「家族」という思いで寄り添いを続けており、ホーム内は家族的な雰囲気になっている。社長、施設長、管理者のお人柄もあり、他の優しい職員の笑顔の中で、入居者の方々も穏やかな表情で生活されている。今後もアセスメント内容を増やすと共に、医療連携に通じる各種計画との連動を強化していく予定である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己 外部			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は、日々の現場の中で理念と経営方針を念頭に活動している。	「一人ひとりを大切に、優しい笑顔、人に優しく、自分に厳しく」という理念を大切にされている。優しい職員ばかりで、入居者の方々の思いを大切にしたい関わりを続けている。編み物、リハビリ等、ご本人のお好きな事や日課等を楽しまれている。	「自分に厳しく」と言う理念があり、職員個別の指導を続けている。社会人として必要な指導を続けている職員もおられ、今後も個別面談等を通して、「自ら気づいて行動できる」など、職員個々の「介護目標」等を掲げていく予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者・職員は近隣の方々へのあいさつはもちろんのこと、遊びに来ていただけるよう声掛けも行っている。	老人会主催のだご汁会を毎年楽しみにされている。小学生が帰宅する時の見守りを行ったり、グラントゴルフに参加する事もでき、地域の一員としての活動を今後も継続していく予定である。ボランティア(さくら会)の方が日舞やフラダンス、歌などを披露して下さい、楽しいひと時を過ごされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の場において、認知症の症状に対して理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、外部評価後の運営推進会議で報告を行うとともに、意見をいただきサービス向上に活かしている。	自治会や老人会会長、市職員、地域包括職員の方等が参加して下さい。近況報告と共に、毎回テーマを決めて情報交換を続けている。三瀬消防署の方に災害時の避難方法を講話して頂いたり、地域の方からも子供見守り隊の情報を頂き、入居者の方々と参加する事ができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所に出向いた時の相談し助言をいただいている。	市や地域包括の職員が運営推進会議に参加して下さい、色々な相談ができています。市の職員に居室の窓の施錠などを相談し、アドバイスを頂いたり、GPS貸し出しシステムの“安心登録”等も教えて頂いた。市の職員から研修情報等のメールも頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会を設置し、毎月のミーティングにおいて話し合いをし身体拘束を行わない介護を実践している。	入居時に「身体拘束をしない」事とリスクを家族に伝えている。行動障害が表れている時は主治医に相談し、入院治療も行われている。帰宅願望が見られる時も職員が寄り添い、家族との相談を続けている。今後も行動障害の原因を分析し、個別のケアを続けていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の定例会で、疑問に思ったことや判らなかつたことを話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、ミーティングにおいて内部研修を行うとともに全員ではないが外部研修にも参加している。	権利擁護等の外部研修にケアマネが参加し、職員にパンフレットや資料等で伝達している。施設長が入居時に家族などに制度の説明をしており、現在制度を利用している方もおられる。入居後も制度の必要性を検討すると共に、必要に応じて市役所に相談している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行うとともに書面で同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料を支払われるときに意見要望等を聞いて運営に反映させている。	日々の会話の中で入居者から思いを伺っている。家族の方々とは訪問時や電話で要望を伺っており、今後も更に、ご本人から行きたい所や食べたい物などの要望を伺うと共に、家族との情報交換を深め、介護計画に反映していく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や朝夕の申し送り時に意見や提案を聞いて運営に反映させている。	日々の業務やミーティング時に職員の意見が聞かれており、研修参加の機会も増やしてこられた。勤務態度等の指導も個別に続けており、今後も職員の個人面談の中で職員個々の目標を掲げ、モチベーションの向上に努めると共に、チームワークの強化に繋げていく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年賃金の見直しを行いました。また、職員の努力や実績に関しては、賞与に反映させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては一切の偏見はしておりません。また、職員の個々の能力を生かせるよう努めています。	男女の職員が勤務し、職員の年齢層も広く、性別や年齢等を理由に採用対象から排除する事はない。職員個々の特技があり、毎日の食事作りや飾り付け、お花作り、写真撮影等、お力を発揮して頂いている。希望休が取れるように勤務調整を行い、研修受講もできるようにしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修外部研修に参加し理解を深めている。	接遇マナーや認知症高齢者のBPSD等の研修を通じて、職員の人権教育に努めている。施設長や管理者、ケアマネの方々は「一人ひとりを大切に」「笑顔で挨拶」等の大切さと共に、「入居者と会話する時は優しい笑顔で・・・」等も職員に伝えており、新人職員等も素直に聞かれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	年間研修計画を作成するとともに、研修費 や資格取得への補助を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	地域包括圏域において事業所の勉強会が あり参加させていただいている。また良いと ことは進んで取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	情報・要望を聞き不安なく暮らせるよう関係 性を築いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	契約時にご家族の要望を聞きできる限り意 に沿えるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談の時点で、利用者本人の状態 を考慮し、他事業所サービスを含めた提案 を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、「家族」という言葉を念頭に日々 活動するよう教育している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	職員とご家族が協力して利用者本人を支え ていけるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様から要望があれば、できる限り対応している。	施設長が年賀状を代筆し、家族に近況をお知らせしている。老人会の“だご汁会”では馴染みの方もでき、参加を楽しみにされている。友人の訪問や家族の面会もあり、お墓参りや宗教の会合等にも行かれている。今後も馴染みの場所などを把握し、アセスメント等に追記する予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でトラブルがあったときは、職員が間に入って仲を取り持っている。関係性が崩れないよう注意して見守っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の性格・生活歴・経験等を考慮して、できる限り本人の意向に沿って生活できるよう取り組んでいる。	入浴や夜勤時など、1対1の時に思いを話して下さる。「買い物に行きたい」「温泉に行きたい」等も話して下さり、願いを叶える取り組みを続けている。「息子さんに編み物を・・・」と願い、居室で編まれる方もおられ、今後も生活歴や趣味、思い等を職員全員で共有していく予定である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時にご家族及び本人から生活歴・経験・既往歴などできる限り情報を収集するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の日誌を作成し、その日の心身状態、過ごし方がすぐに把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・見直しについてはミーティングにおいて全職員で話し合い。よりよいケアができるよう努めている。	介護計画には「洗濯物たたみ」「散歩」「買い物」等も盛り込まれ、自立支援の視点で“できる事”をして頂いている。生活歴を活かし、草花の手入れや草取り等もして頂き、「歩けるようになりたい」と言う思いで車いすを自走して、廊下の往復をされている方もおられる。	今後は更にアセスメント内容(できる事、介助が必要な事と理由、できそうな事、要望、課題の解決策など)を増やすと共に、医師(意見書)や看護師、薬剤師の計画内容とホームの計画内容(目標と実施等)を連動させていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を個別に作成し利用者の心身所 様態を把握できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者及びご家族にニーズに対しては、で きる限り対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協・老人会・児童民生委員・ボランティア・ 警察消防機関等と協力しながら支援してい る。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し ている	かかりつけ医は契約時に本人またはご家族 に選んでいただいている。	施設長が受診介助し、主治医に体調等を報告し ている。26年夏から週6日の往診があり、水分量 等の指示を頂いたり、必要な処方をして頂いて いる。訪問看護師がリハビリ等をして頂き、薬剤師の 居宅療養管理指導もあり、今後も介護計画との連 動を強化していく予定である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	介護職員の日々の気づきは往診時や訪問 看護師が来るときに伝え利用者の健康保持 に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、又、できるだけ早期に退院できるように、病院 関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている。	利用者入院時には必ず職員が同行しドク ターとの情報交換を行っている。入院中も 病院へ訪問し利用者の状態把握に努めて いる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	事業所・ご家族・医療機関と連携を取りなが ら終末期ケアに取り組むことをご家族ご本 人に説明し納得していただいている。	契約時に“看取り介護に関する指針”の説明が行 われ、「今はわからない」「延命までは…」等の思 いを把握している。「医療処置は望まず、ホームで自 然に最期まで」と願う方もおられ、2年間で3名の 看取りケアが行われた。24時間体制で往診医や 訪問看護師と連絡を取る事ができ、夜間の往診も 受けられ、職員の安心になっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応するとともに、わからない部分は医療機関等に相談している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通常年2回の避難訓練を行っている。	28年9月は消防署の方に地震や水害の避難対策の講話を頂いた。12月は設備機器点検時に日中想定訓練が行われ、避難時の正確な情報伝達の重要性を再確認する事ができた。隣家にも訓練時の声かけや協力依頼をしており、災害に備え3日分の飲料水や食料を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者がなじみの関係にはあるものの言葉かけには注意するよう日々の活動の中やミーティング時に指導している。	新入社員は接遇マナー研修に参加している。日々のケアの中で、入居者の自尊心を傷つけないように努めると共に、馴染みの関係でもあり、「親しき仲にも礼儀あり」と言う思いを大切に、優しい声かけを続けている。希望に応じて同性介助が行われ、個人情報漏洩しない取り組みも続けている	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においても本人が選択できるような言葉かけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはあるものの無理にその流れに乗せるような対応はせず、利用者のペースを大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者・ご家族に納得していただいたうえで訪問理容を利用していただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望があればその意見を献立に取り入れています。また、豆の皮むきなど、利用者ができることは手伝ってもらっています。	施設長が調理師であり、味噌汁の具材や献立に応じた食材を購入して下さる。入居者の要望を確認すると共に、過去の献立も参考に、美味しい料理が作られている。魚が好きな方も多く、魚の煮付け等も奇麗に食べられている。テーブル拭きや下膳など、入居者のできる事をして頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎日個々に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舞食後の歯磨きの支援に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し気持ちよく排泄できるよう対応している。	布の下着を使用し、汚れた下着をご自分で洗われる方もおられ、「自分でしたい」という思いや自尊心を大切にされている。排泄時はカーテンやドアを閉め、さりげなく見守り支援をする方もおられる。座位が困難でオムツを使用する方もおられ、ご自分から排泄後に教えて下さっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を個々に行っており必要な場合にはかかりつけ医に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日及び時間帯は設定しているが希望があれば柔軟に対応している。	足を伸ばして入浴できるが、安全のため職員が支えている。菖蒲湯なども楽しまれ、入浴時の職員との会話の中で、「買い物に行きたい」「お菓子を買いたい」「温泉に行きたい」等の要望も聞かれ、計画に反映していく予定である。入居者の肌に応じて、綿素材のタオルを準備している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者には自由に休息をとっていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個々の薬情を管理するとともに内容を職員全員が把握し症状の変化の確認に努めるとともに、かかりつけ医や薬剤師に情報提供している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かした草花の手入れ、草取り、洗濯もの畳み等手伝ってもらい生活の活性化に努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は利用者一人一人に聞いて支援している。普段いけな場所への外出は職員と利用雄社と話し合い決めている。	職員とホーム周辺を散歩されている。梅や桜、藤、向日葵などの花見に行かれたり、柳川の下げ門巡りや足湯も楽しまれた。ダイレックスや”ゆめタウン”に行き、お菓子を買われたり、地元の酒蔵の蔵開きに行き、お酒を試飲する事もできた。ベンガラ村の公衆浴場を利用し、外食なども楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が難しい方は買い物のとき立て替えを行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使っている。手紙も希望があれば支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植木、草花、装飾品、四季折々の写真、利用者の写真等全体に取り入れ明るく和やかな空間づくりに傾掛けている。	社長等は「明るいホームにしたい」と考えられている。玄関に椅子とテーブルが置かれ、散歩の帰りに座られたり、ベランダで日向ぼっこをされている。廊下の幅も広く、車いすの方もスムーズに自操されており、廊下の外出時の写真を見て、思い出話をされている。壁に張り巡らされた観葉植物も美しく、和やかな雰囲気になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やダイニング、廊下などソファやいすを設置し気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス利用前に極力使い慣れたものを持ち込んでいただくようご家族に説明している。	ペット(電動ペット)等を備え付けている。寝具やタンス等を持ち込まれ、写真も飾られている。仏壇や遺影を居室に置かれている方もおられ、ご自分でお茶をお供えしている。居室で本を読まれたり、編み物をされる方もおられ、ペット横の杖の置き方もご自分で工夫されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室及び共有空間において利用者にとって障害物を極力排除しかつ安全に移動ができるよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				